

③6宮城県上工下水一体官民連携運営事業 ～みやぎ型管理運営方式～

受賞機関 宮城県 企業局

キーワード コンセッション方式、水道3事業の一体的運営

全建賞審査委員会の評価ポイント

公共施設等運営権（コンセッション）方式を上工下水事業に導入した取組。水道3事業へのコンセッションの導入により、スケールメリットを活かして大幅な事業コストの削減を図った官民連携事業の先進的な取組である点や、多数の水道・下水道関係を一元化し、PFIを実施している点が評価された。

1. はじめに

宮城県企業局は、水道用水供給事業、工業用水道事業及び流域下水道事業の水道3事業を運営している。人口減少社会の到来や節水型社会の進展等による水需要の減少に伴い料金収入が減少していく一方で、施設や管路等の大規模な更新時期を迎えることから、水道事業を取り巻く経営環境は今後ますます厳しさを増し、将来の大幅な料金上昇が避けられない状況にある。

そこで県では、持続可能な水道事業経営を目指し、民間のノウハウを最大限活用することにより大幅なコスト削減が可能となる「コンセッション方式」を全国に先駆けて水道事業に採用し、独自の契約制度による「宮城県上工下水一体官民連携運営事業（みやぎ型管理運営方式）（以下「みやぎ型」という。）」を確立し、令和4年4月から事業を開始した。

2. 事業の概要

みやぎ型の目的は県が事業の最終責任を持ち、代替可能な公共サービスとしての信頼を保ちながら、水道3事業を一体の事業として民間の力を最大限活用することにより、経費削減、更新費用の抑制、技術継承、技術革新等を可能とすることである。

役割分担として、運営権者は水道3事業の経営、施設の維持管理及び改築を行う。対して県は管路の維持管理、改築等を行い、水道法に基づく水質検査も実施する。また、運営権者が業務を確実に遂行し、かつ、基準を安定的に遵守しているかモニタリングし、その結果を事業運営にフィードバックする体制を構築した。

これまで民間事業者の業務は浄水場等の運転管理（仕様発注）に限定されていたが、みやぎ型では契約期間の長期化（20年間）、9事業を一体とした契約、性能発注により、施設の運転、維持管理、改築を効率的に実施するとともに、民間のノウハウやスケールメリットを生かして、大きなコスト削減を達成している。



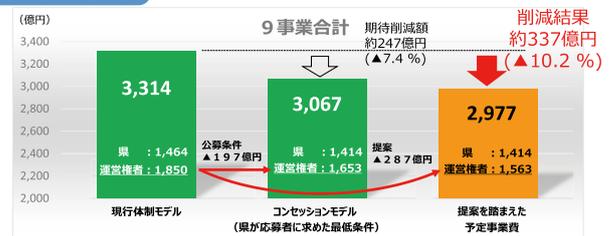
事業開始式（令和4年4月12日 南部山浄水場）

3. 事業の成果

県は現行体制のまま20年間事業を継続した場合の事業費を3,314億円、みやぎ型を導入した場合に期待できる事業費を3,067億円と試算した。

このうち、運営権者の事業費の1,653億円を上限額として公募条件に定めた。運営権者は、1,563億円で事業運営すると提案したことから、県と合わせた総事業費は2,977億円、現行体制と比較した事業費削減額は約337億円となった。

20年間の総事業費



削減結果の算定結果表

項目	金額
① 現行体制継続時の予定事業費総額	3,314億円
② 提案を踏まえた予定事業費総額	2,977億円
③ 削減額 (=①-②)	337億円
④ 削減率 (=③/①×100)	10.2%

事業費削減結果

4. おわりに

事業開始から1年が経過し、これまでと変わらず安定的な水の供給、適切な下水処理を行うことが出来ている。県は水道事業の最終責任者として、水の安全・安心に向けて運営状況の監視、事業の透明性の確保及び情報発信に引き続き努めながら、みやぎ型が全国の水道事業における経営基盤強化の新たなモデルとなるよう、運営権者と連携し、しっかりと取り組んでいく。